

学力向上を目指した週指導計画(週案)に関する  
調査研究

平成25年3月

千葉県総合教育センター学力調査部

## 学力向上を目指した週指導計画(週案)に関する調査研究（概要）

### ○調査目的

週案の効果的・先進的な活用方法や作成方法の調査・紹介

- ・週案を授業力向上等に活用し成果を上げている取組
- ・週案作成にパソコン等を利用し、校務の効率化を図っている取組

### (1) 現状分析（アンケート調査－千葉県総合教育センター研修参加者）

<対象 小学校新任副校長・教頭103名，新任教務主任67名，10年目教諭119名>

- ・週案は、ほとんどの教員が作成している。
- ・校長・教頭は、週案を介して教員に対する指導・助言を適切かつ速やかに行っている。
- ・週案は、主に「授業時数の管理」，「授業進捗の確認」のために活用されており，「授業改善」の視点に立った活用は約30%にとどまる。また，多くの教員は，「授業改善は研修や授業研究で行うもの」であり，「週案で授業改善を行うことは難しい」と考えている。
- ・週案に記載されている多くの授業記録や授業実践上の工夫などが，個人的な記録にとどまり教員間で共有されていない。
- ・データの共有による作成時間の削減など，多忙感解消のために工夫している学校は少ない。

### (2) 活用事例

アンケート調査分析及び訪問調査の結果から，週案の有効活用の取組について，次の4つに分けた。

#### **A 週案と自己評価の一体化による授業改善**

##### ○セルフチェックシート（自己評価表）を活用した授業力向上の取組

週案に自己評価表を組み込み，毎週，授業を決めて自己評価を行った。これにより，「自分の授業改善の課題を解決するためのツールとして活用することができた。」「週案の反省を観点に沿って明確に行うことができた。」「管理職は，授業者に具体的でわかりやすい指導・助言を行うことができた。」「職員間で共通の評価観点を持つことができた。」などの成果があった。

#### **B パソコンを活用した効率的な週案の作成とその管理**

##### ○週案と年間指導計画との連携を図っている取組

匝瑳市では市内の教務主任が集まり，各教科ごとに年間指導計画を作成している。（エクセルデータで各教科1時間ごとに作成）このデータと週案を連携させ指導内容を取り込めるようにした。「週案作成時間が短縮され，教材研究の時間や児童とふれあう時間など余裕が生まれた。」との成果があった。

## **C 週案を学年経営・学校経営に生かすことを通じての授業改善**

### ○学年会での活用（OJTの活用）

若手教員の大量採用時代を迎え、若手教員の育成が課題となっている。その中でOff-JT(学校外人材育成)と呼ばれる県・市町村単位で行われる研修と平行してOJT(学内人材育成)と呼ばれる研修手法が重要視されてきている。これは、日常活動の中で教員を育てていくシステムである。今回、週案をツールとして若手教員を学年会で育てようとする取組は、日々の授業改善・生徒指導・保護者対応など学年会で相談することで解決できるなどの成果があった。

### ○週案の内容を保護者へ公開して理解・協力を得ている取組

週案を担当の授業計画としてだけではなく、保護者へ毎週配付している取組である。「担任の方針や考えを授業を起点としてダイレクトに伝えることができ、保護者に理解と協力を得ることができた。」との成果があった。

## **D 週案を自身のポートフォリオとして活用することでの授業改善**

### ○ファイリングシステムによる授業履歴の蓄積

ファイリングシステムを利用する学校が増えている。教師の授業履歴やその際使用した教材教具、改善点などを記録することにより、週案を自身のポートフォリオとして、授業改善に活用している取組である。

現在、大学で主流となりつつある評価方法としてTP(ティーチングポートフォリオ)がある。これは、教育実績の記録を整理・活用する仕組みであり、自己省察による授業改善や業績評価の資料として利用されている。TPは、今回紹介する週案のポートフォリオ化に近いものがあると考えられる。今後、自己評価や業績評価の資料として利用できる可能性がある。

## 1 タイトル

学力向上を目指した週指導計画(週案)に関する調査研究

## 2 はじめに

年間指導計画や週指導計画（以後「週案」と表記する）をはじめとする学習指導計画は、日々の教育活動のシナリオそのものであり、その効果的な作成や活用は児童生徒の学力向上や教員の指導力向上の根幹をなすものである。また、小学校での学習指導要領の実施にあたり、各学校の教育課程の改善に向け、週案による授業検証システム（PDCAサイクル）としても、その活用意義は大きい。

ところが、その形式や作成方法、活用、評価方法は、各市町村や各学校により様々であり、さらに地域間、学校間での情報交換の機会はほとんどない。また、近年、デジタル化が行われるようになり、授業計画の共有化・作成作業の短縮・時数集計など、校務処理の効率化や活用の面で学校間での差が現れてきている。

そこで、総合教育センター研修参加者へのアンケートや学校訪問による聞き取り調査等を通して、各地域・学校の現状を把握し、効果的な取組や先進的な作成方法についてまとめ、これを紹介することで、小学校児童の学力向上と教員の指導力向上の一助としたい。

## 3 研究の目的

- 週案の効果的・先進的な活用方法や作成方法について調査し紹介する。
  - ・週案を授業力向上等に活用し成果を上げている取組について
  - ・週案作成にパソコン等を利用し、校務の効率化を図っている取組について
  - ・週案の作成方法を工夫し、付加価値を生み出している取組について

## 4 研究計画

### (1) アンケートによる実態調査 平成23年6・7月

- 対象 新任教頭・新任教務主任・10年目経験者研修会参加教諭
- 時期 6月22日(水), 7月5日(火), 8月4日(木)
- 方法 アンケートの実施・回収 ※小学校教員対象
  - 6月22日(水) 新任教頭研修会
  - 7月5日(火) 教務主任等実践的指導力の向上・充実研修会
  - 8月4日(木) 10年目経験者研修会
- 内容
  - ・年間指導計画 作成, 反省, 修正改善
  - ・週案 作成の有無, 形式, デジタル化の有無, 用途評価, 生かし方, 工夫

### (2) 聞き取り調査 平成23年7月～1月

- 目的 実際の年間指導計画, 週案を確認することで, 日々の教育活動にどう利用し, どのような成果を上げているか調査を行う。また, 有効的な活用例について集約する。
- 方法
  - ・学校訪問による調査
  - アンケート調査を行った結果を基に有効活用事例について追跡調査を行う。

匝瑳市教育委員会  
君津市立周西小学校  
匝瑳市立共興小学校  
匝瑳市立栄小学校  
匝瑳市立豊栄小学校  
館山市立富崎小学校  
館山市立北条小学校  
習志野市立屋敷小学校  
船橋市立豊富小学校

(3) まとめ 平成23年12月～平成24年2月

アンケート調査，訪問調査，工夫のある週案について分析しまとめる。その結果については，Web ページに掲載する。また，学力向上交流会での活用，各種研修会の資料としての活用する。

①現状分析（アンケート調査）

年間指導計画および週案の利用状況について県内のおおよその傾向をつかみ，まとめる。

②訪問調査について

実際の年間指導計画や週案を確認し，教師が学級経営や教科指導でどのように生かしているか具体的にまとめる。

③週案の効果的な活用や工夫についての事例

週案の効果的な活用や利用について紹介する。

- ・形式等の工夫
- ・評価の工夫(授業改善)
- ・ファイリング機能の工夫
- ・デジタル化の工夫

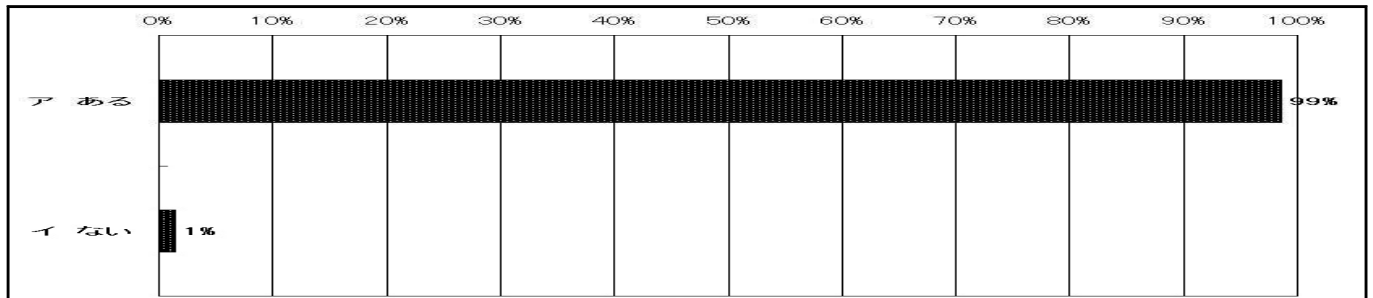
## 5 研究の内容

### (1) 現状分析 (アンケート調査について)

対象 小学校 新任副校長・教頭103名, 新任教務主任67名, 10年目教諭119名

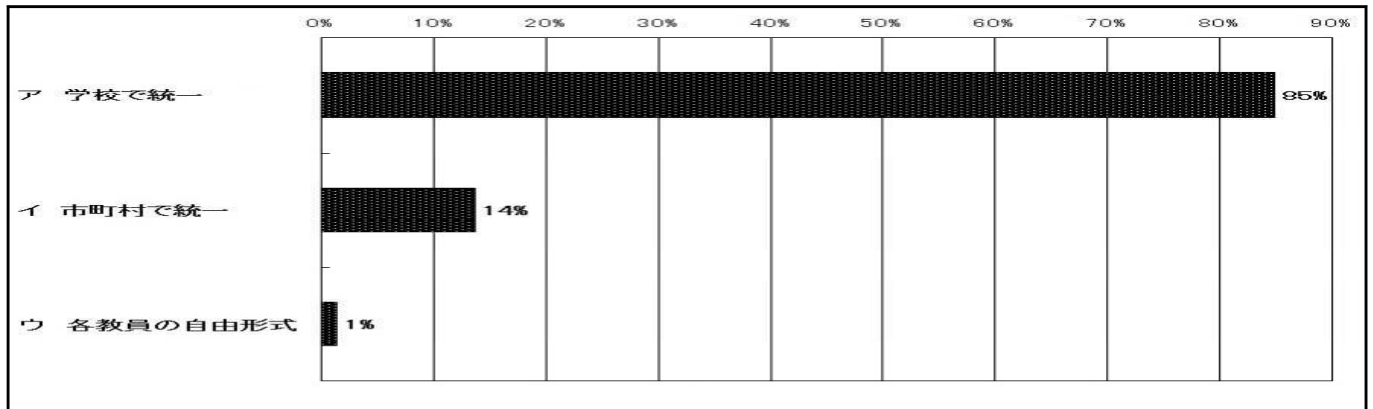
1 あなたの学校には週案がありますか。

週案はほとんどの学校で作成されている。



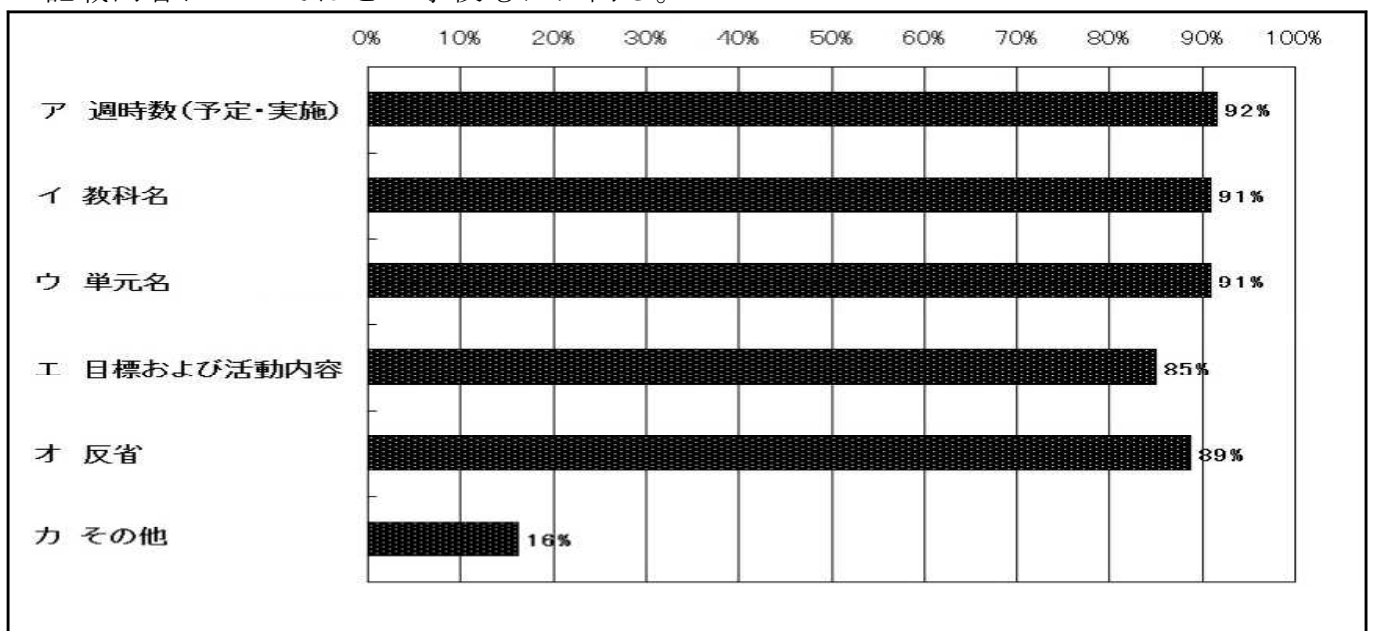
2 週案の形式は統一していますか。

形式は学校で統一しているところが多い。



3 週案には, どのような内容を記載していますか。

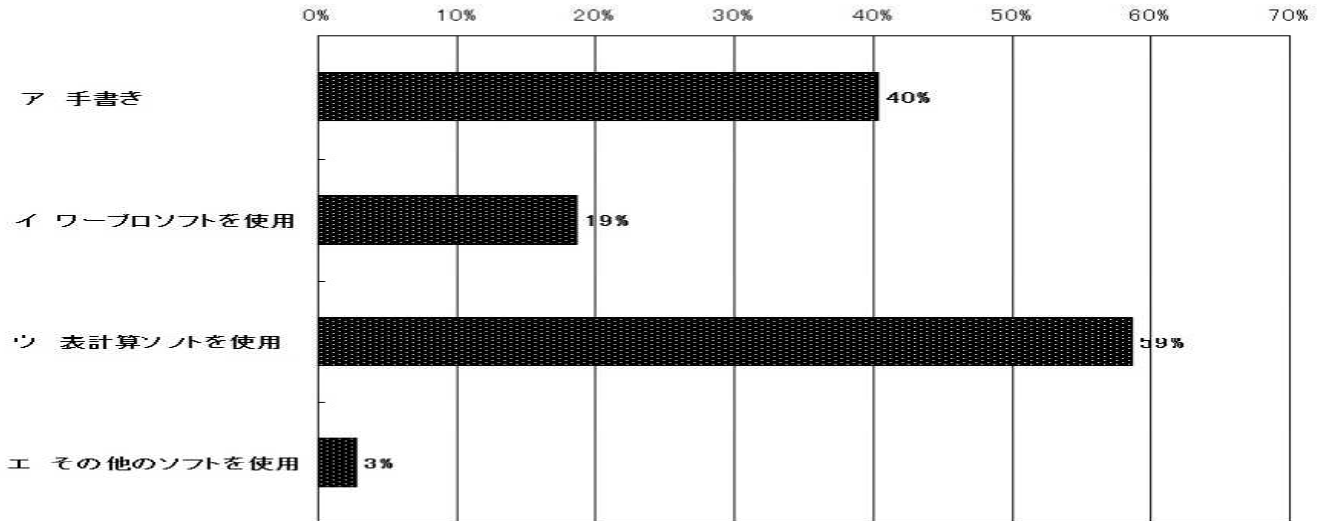
記載内容についてはどの学校もほぼ同じ。



- 内容については、週時数、教科名、単元名、目標及び活動内容、反省を記載している学校がほとんどだった。
- その他では、「安全指導」「生徒指導」について記載する割合が多かった。

4 あなたの学校では、週案をどのように作成していますか。

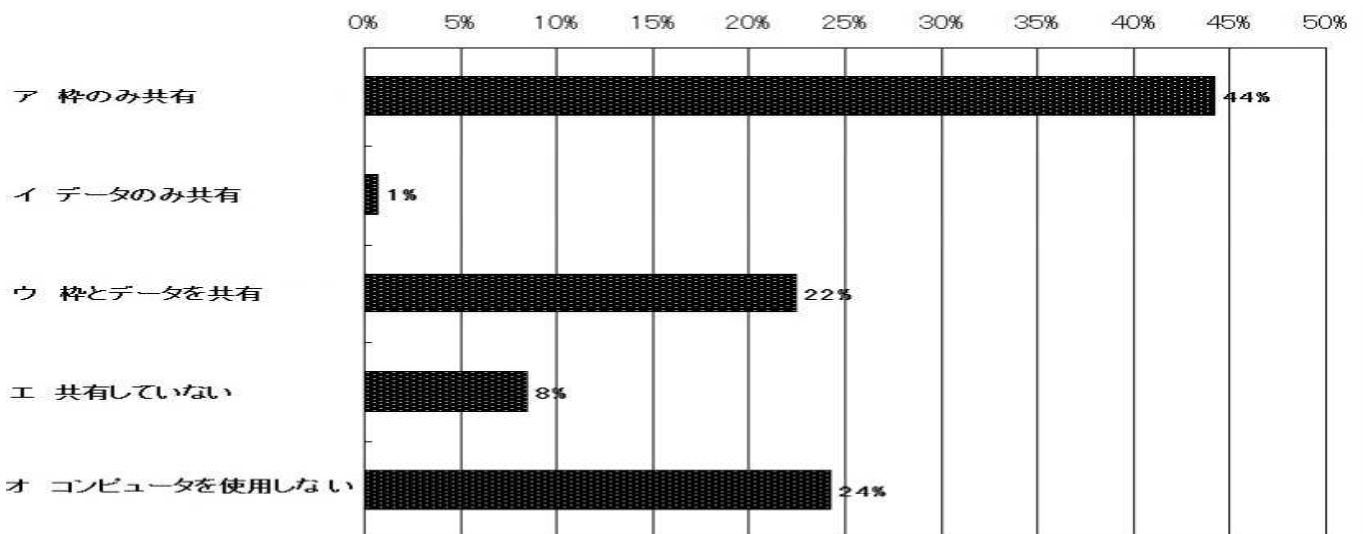
週案は、若手中心にパソコンで作成している。



- 若い教諭を中心にパソコンを利用して効率化を図っていることがわかる。
- ・方法（※同一校でパソコン、手書きが混在している場合あり）
  - 手書き・・・40%
  - ワープロ・・・19%（パソコン）
  - 表計算・・・59%（パソコン）
- ・手書きで作成している割合は、全体では40%と高いが、10年目教員では28%と低い。
- ・パソコン使用の中では、表計算ソフトを使用して作成している学校が多い。

5 教員間で枠やデータを共有していますか。

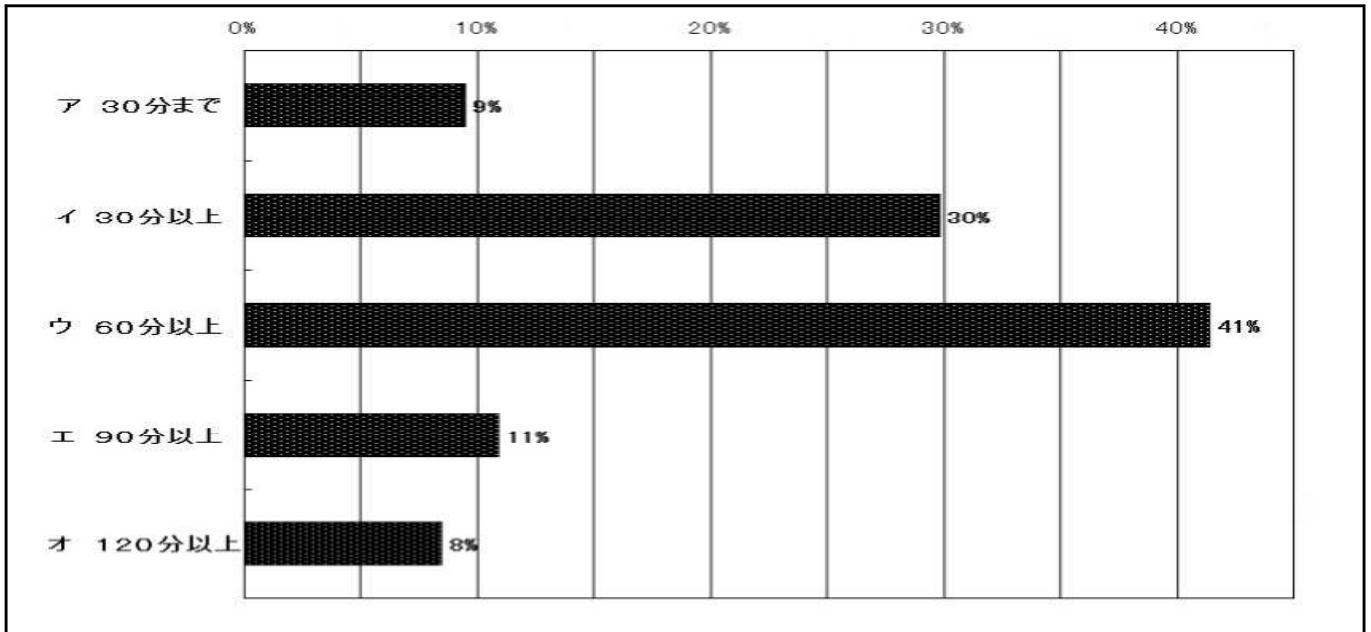
教員間で共有化が進む。



- コンピュータを使用している学校は、枠やデータなど共有をはかり、仕事内容の効率化を図っていることがわかる。
- ・「週案の枠」を共有している学校が44%である。
- ・「枠とデータ」を共有している学校は22%である。

6 1週間分の週案作成のためにどのくらいの時間をかけていますか。

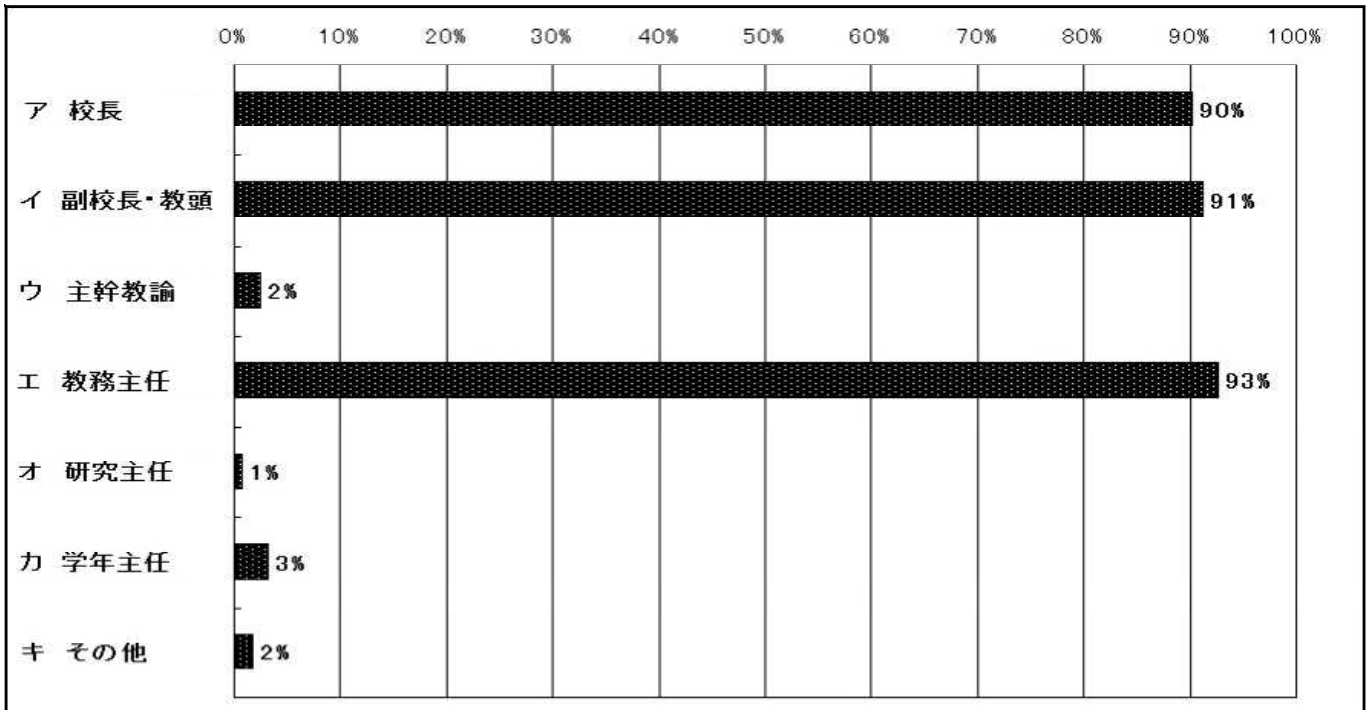
1週間分の週案作成時間は60分以内



- 作成時間が「30分まで」では、基本的項目のみをパソコンを利用し作成していた。
- ・30分～60分までの作業時間が多い。
- ・120分以上かけているところでは「毎日及び毎時間の授業評価」や「子どもの様子・保護者対応」の記録など行っていた。

7 週案の点検と指導は、主に誰が行いますか。(複数回答可)

週案の主な指導者は校長、教頭（副校長）、教務主任である。

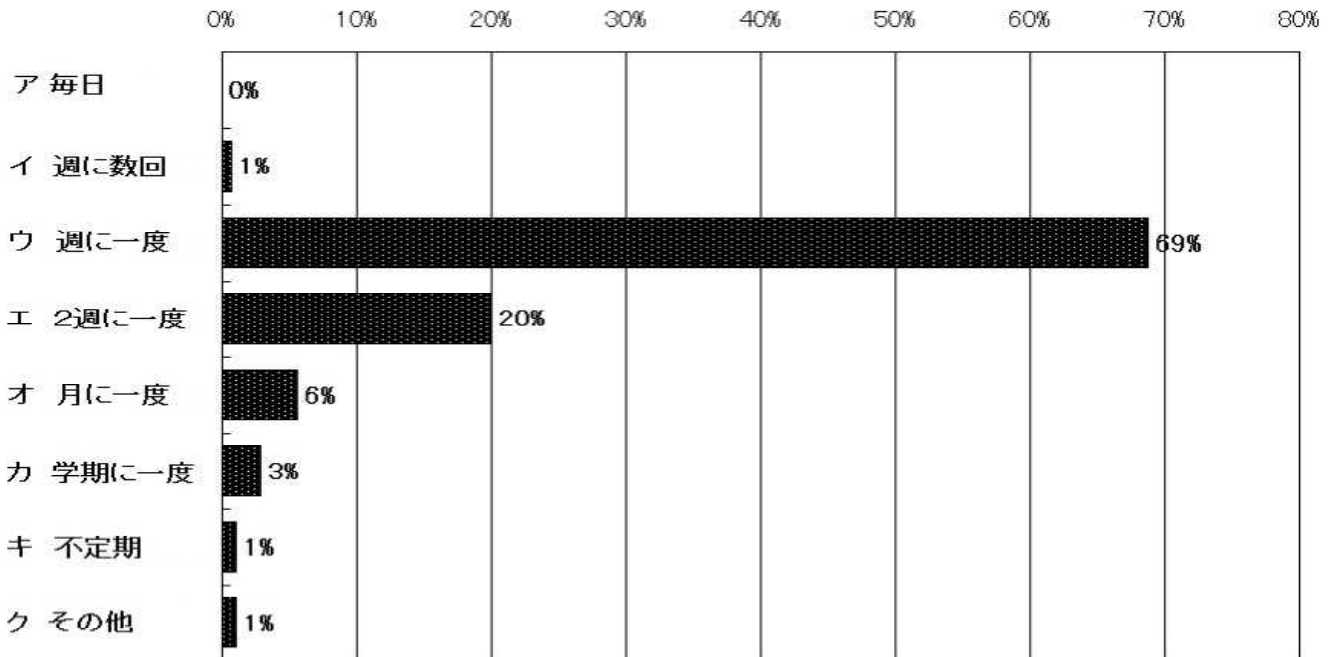


- ・校長、副校長及び教頭、教務による点検が90%以上を占めている。
- ・その他はあまり割合が高くないが、学年で複数学級ある場合、学年会等で主任が点検したり、打ち合わせで内容をそろえたりしているところがある。



8 週案の提出は、どのくらいの頻度で行いますか。

週案の提出の頻度は週に1度である。

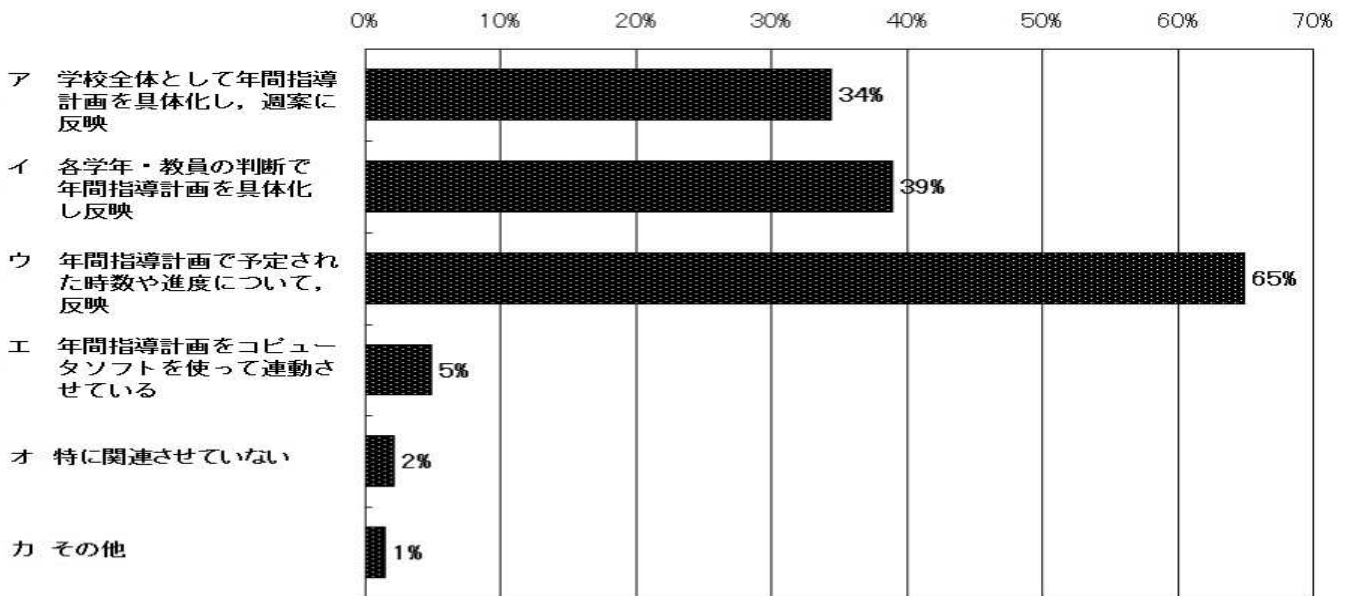


○返却をできるだけ早く行うよう管理職は心がけているようである。  
(授業の反省がその日のうちに行えるように。)

- ・週に一度・・・69%
- ・2週に一度・・・20%

9 週案は年間指導計画とどのように関連させ作成していますか。(複数回答)

年間指導計画は進度の調整に利用している。

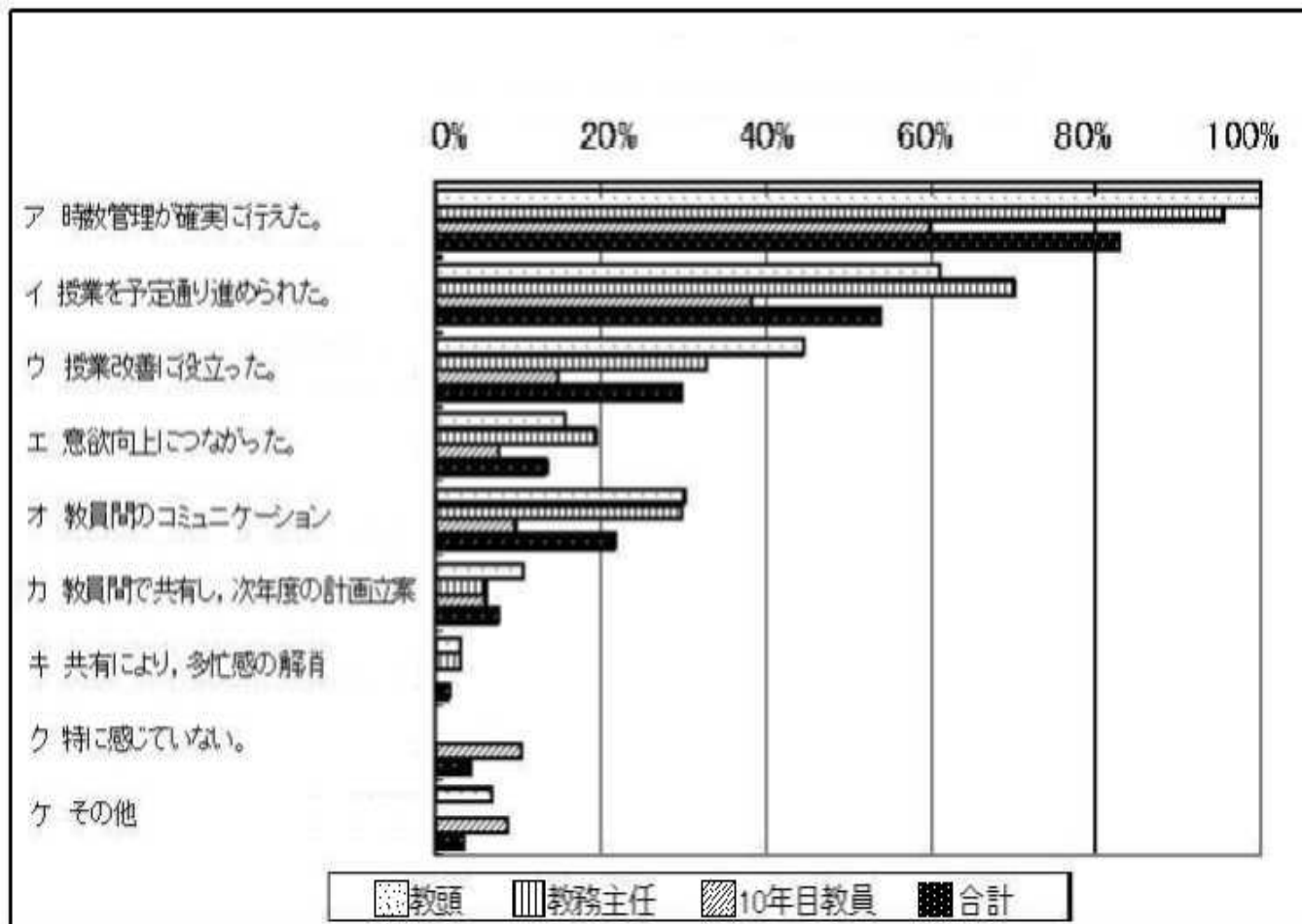


- ・予定された時数や進度を年間計画と合わせている学校が一番多く、65%である。
- ・学校として、年間計画を週案に反映させているところは34%である。
- ・コンピュータを利用して連動させているところは2%と低い。

○自由記述の中で「年間指導計画の内容がそのままの状態に関連させることは難しいのではないか。」との記載があった。週案は毎時間の授業内容を考え、記載するものなので、年間計画をそのまま参考にするには難しいことがわかった。

10 週案を作成した成果は何ですか。(複数回答)

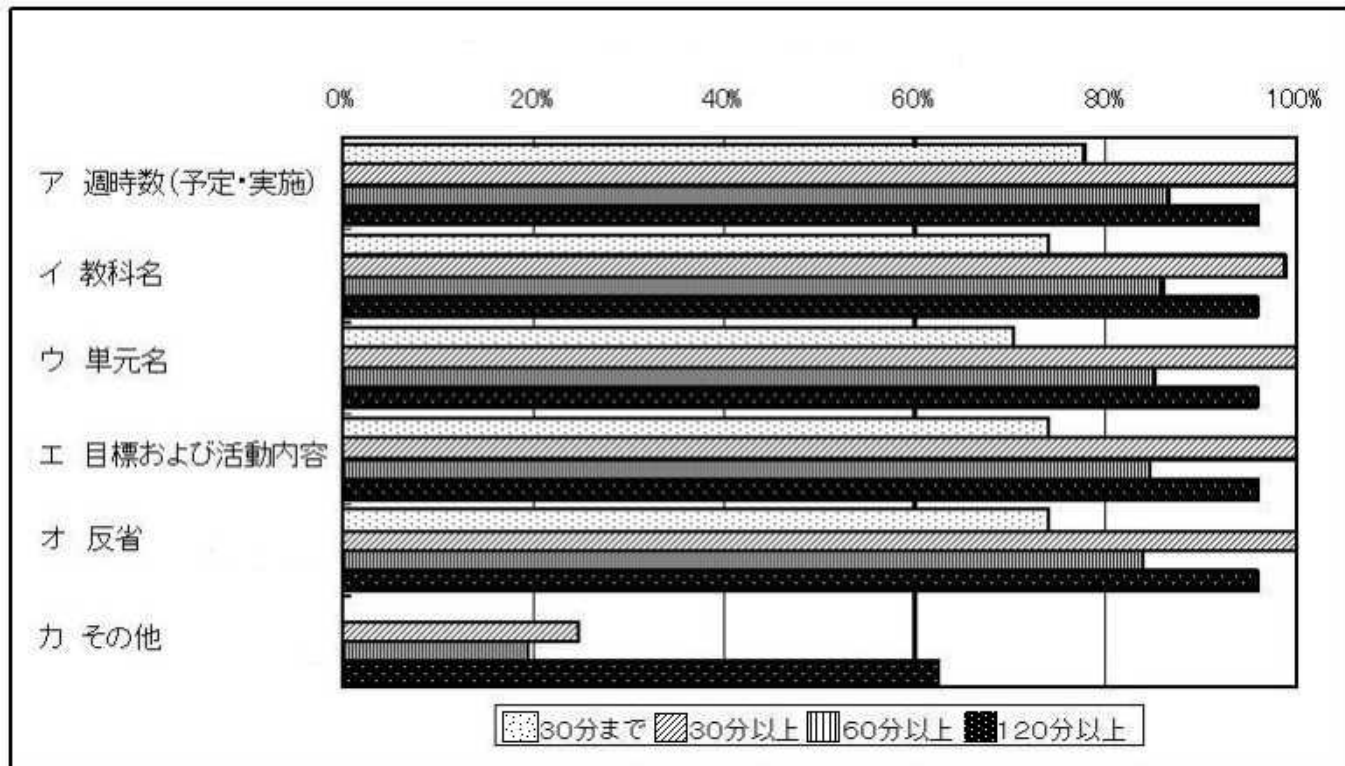
週案は時数管理に有効だった。



- ・成果として最も多いのは、「時数管理が確実にできた」ことである。(教頭100% 教務主任96%)
- ・「授業改善に役立った」30%、「教員間で共有」8%と低かった。
- ・「教職員間のコミュニケーション」をあげた割合が教頭・教務主任は高いが10年目教員はあまり高くなかった。教頭・教務主任は、週案をもとにして、学習指導・生徒指導・学級経営など幅広く助言や支援ができる。また、メンタルヘルスの対策でも有効であると答えている(自由記述)。しかし、10年目教員にとっては、週案をもとにした管理職のアドバイスが指導改善に役立っていると感じている教員は少ない。
- 週案の内容の共有化については、割合が低いですが、自由記述の中では、共有することで次年度の計画で反省に基づいたものを作ることができるとの意見があった。また、昨年までの内容を参照することで、時期的に見通しを持つことができることがわかった。
- 「10年目教員」の回答では、週案が有効だったとする回答の数値が低かった。「特に感じていない」と答えた割合が10%であることから週案を普段から有効に活用している教員は少ないことがわかる。
- 「授業改善に役立っている」と答えた割合は低かった。

## 1.1 作業時間による内容の変化について（クロス集計結果）

作業時間が長いほど、基本的な記載内容以外に安全指導・保護者対応・子どもの様子などを記載している。



○反省の記入は、授業評価にもつながる。また、自分の計画がどうだったかを振り返ることにもなる。以上の理由から、重要な項目の一つだと考える。

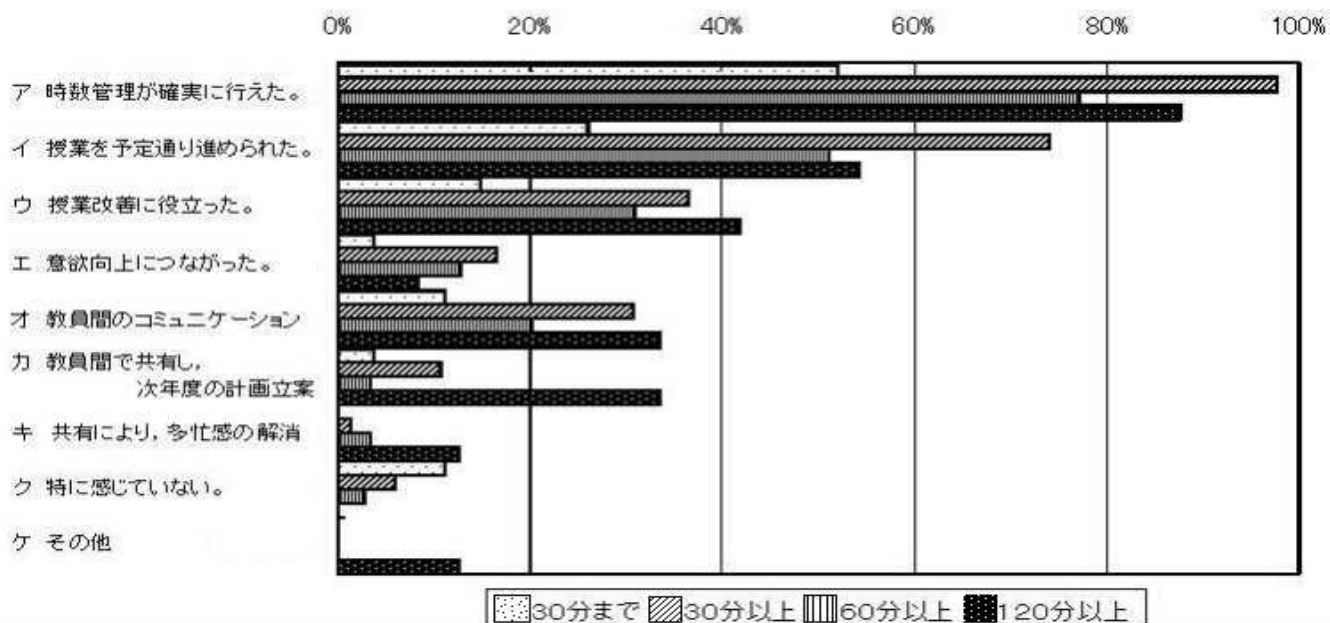
- ・作業時間が「120分以上」とその他を比べた場合、アからオまでの項目はあまり割合が変わらないが、「カ その他」を選んでいる割合が63%と高い。時間をかけているところは、安全指導・子どもの様子・保護者対応など、「カ その他」内容についての作成を行っていることがわかった。

（60分以上19%，30分以上25%，30分まで0%）

「その他」の主な内容・・・安全指導，子どもの様子，保護者対応，授業評価など

## 1 2 作業時間と成果との関係について(クロス集計結果)

週案の成果は、時数管理と進度調整に表れている。



- ・作業時間「30分まで」と答えた場合は、成果について全ての項目で低かった。
  - ・全体では、ア・イについては、50%～90%台と高いが、その他については50%以下と低かった。
  - ・アの「時数管理」については、「30分以上」98%、「60分以上」77%、「120分以上」88%と高い割合を示した。
  - ・イの「授業を予定通り進める」については、「30分以上」が74%と高い。
  - ・ウの「授業改善」カの「共有し次年度の計画立案」については、「120分以上」が他と比べ、それぞれ順に42%、33%と高い。
  - ・クの「特に感じていない」については、作業時間が上がるほど、割合は低くなっていく。
  - ・作業時間「30分」までについては、パソコン処理や内容を精選するなど短時間で工夫ができていたため、時数管理については52%とア～ケの中で一番成果を上げていると感じている教員が多いことがわかった。その他の部分の成果については、割合が低く成果としては、ほとんど見られない。
- 作成時間に関係なく、全ての場合に当てはまる成果が「時数管理が確実にできた」ということである。
- 時数管理と進度調整については、週案は効果を発揮したといえる。しかし、授業改善、意欲向上、共有による計画立案など、教師力向上・学校改善等で考えられている重要な部分については、アンケートの中でほとんどの教員が効果を発揮したと言えないと考えていることがわかった。

### アンケート調査からわかってきたこと

今回の調査で、週案は「進度調整」「時数把握」に有効であることがわかった。しかし、その反面、「授業改善」「意欲向上」に効果を感じている教員が少ないこともわかってきた。

しかし、教員の自由記述の中では、「進度調整」や「時数管理」だけでなく、PDCAサイクルに基づく授業改善や学校改善を週案を用いてやってみようという意見も多く出ていた。

週案は毎週ほとんどの教員が時間をかけて、日々取り組んでいるものであるだけに、「授業改善」「意欲向上」「次年度への計画立案」などに活用できるように工夫していくことが重要であると考えられる。このことから、県下の小学校で取り組まれている実践から「週案の有効活用」について調査し紹介していくことは重要なことであると考えられる。

ただし、これらのことを強く進めるあまり、週案作成に過度の労力を費やすことになってはいけません。教師の多忙感の解消も現在の課題となっている。アンケート調査をもとに教師が多忙にならないようできるだけ効果的な事例について集め紹介することで、有効活用のヒントとなることを期待している。